
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2014年 No.2 (2014.5)

- ・学連春季陸上競技大会
 - …高橋(2)が男子棒高跳で部記録を更新!!
 - ・第67回東北学生陸上競技対校選手権大会
 - …男子200m宮崎(2)、男子10000m本間(2)の2名が全日本インカレ出場権を獲得!!
宮崎(2)の男子200m優勝は1970年藤田文夫先輩(S46卒)以来、44年振りの快挙!!
 - …南(M1)が男子400mで、青木(2)が女子円盤投げで部記録を更新!!
-

| | |
|----------------------|----------|
| ・東北学連春季競技会 | 2～3 ページ |
| ・宮城県春季陸上競技大会 | 3 ページ |
| ・平成26年度春季三秀総会 | 4 ページ |
| ・第67回東北学生陸上競技対抗選手権大会 | 4～15 ページ |
| ・自己記録更新者一覧 | 16 ページ |
| ・今後の予定 | 16 ページ |
| ・編集後記 | 16 ページ |

立夏の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より皆様の並々ならぬお力添えをありがとうございます、部員一同感謝の思いを抱きながら日々練習に励んでおります。

今号では、第 67 回東北学生陸上競技対抗選手権大会の結果を中心にお伝えします。

◎東北学連春季競技会(4/12～4/13) 於 仙台市陸上競技場

シーズン初めの今大会には多くの選手が出場しました。出場選手が多かった種目を中心に結果の一部をお伝えします。

◆男子 100m

| 組(風) | 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|-----------|----------|----|-------|
| 1組(-1.6) | 宮崎幸辰(2) | 3着 | 10"96 |
| 4組(+5.1) | 南共哉(M1) | 4着 | 11"28 |
| 6組(-1.2) | 竹原大(3) | 2着 | 11"37 |
| 7組(-1.8) | 阿部耕大(2) | 1着 | 11"25 |
| 〃 | 向出周太(M1) | 6着 | 11"97 |
| 8組(-0.4) | 工藤知央(3) | 5着 | 11"51 |
| 10組(+1.9) | 高橋拓実(2) | 1着 | 11"51 |
| 〃 | 藤井翼(M2) | 7着 | 12"00 |
| 12組(+3.1) | 佐藤颯真(2) | 1着 | 11"55 |
| 〃 | 本間大輔(4) | 2着 | 11"72 |
| 13組(+4.1) | 小幡卓哉(2) | 4着 | 11"61 |
| 20組(-3.2) | 櫻井直輝(2) | 1着 | 11"70 |

◆男子 400m

| 組 | 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|----|----------|----|-------|
| 1組 | 千葉優人(4) | 3着 | 50"92 |
| 〃 | 南共哉(M1) | 6着 | 52"27 |
| 2組 | 佐藤洋介(3) | 2着 | 52"01 |
| 3組 | 竹原大(3) | 2着 | 52"77 |
| 〃 | 菅原大志(3) | 3着 | 53"18 |
| 4組 | 増田俊太郎(3) | 1着 | 53"92 |

◆男子 1500m

| 組 | 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|----|----------|-----|---------|
| 1組 | 菅野均(M2) | 3着 | 4'12"68 |
| | 三上和樹(M1) | 4着 | 4'13"36 |
| 2組 | 大野慎也(3) | 2着 | 4'12"53 |
| | 田辺明(M1) | 7着 | 4'18"99 |
| 3組 | 早坂謙児(2) | 4着 | 4'21"44 |
| | 田中翔悟(2) | 14着 | 4'39"52 |

| | | | |
|----|---------|----|---------|
| 7組 | 高橋慧伍(3) | 6着 | 4'35"47 |
| 8組 | 富田航(3) | 9着 | 4'48"18 |

◆男子 5000m

| 組 | 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|----|----------|-----|----------|
| 1組 | 藤澤萌人(M1) | 7着 | 15'23"31 |
| | 菅野均(M2) | 8着 | 15'29"06 |
| 2組 | 碓井将也(3) | 7着 | 15'55"08 |
| | 南雲信之介(3) | 10着 | 15'58"72 |
| 3組 | 安西聡(2) | 17着 | 16'17"83 |
| | 高橋仙一(2) | 10着 | 16'19"11 |

◆男子 10000m

| 組 | 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|----|----------|-----|----------|
| 1組 | 高橋佳希(3) | 1着 | 31'24"76 |
| | 本間涼介(2) | 2着 | 31'58"98 |
| | 出口武志(2) | 3着 | 32'07"16 |
| | 藤澤萌人(M1) | 4着 | 32'26"90 |
| | 鈴木貴史(2) | 5着 | 32'45"77 |
| | 南雲信之介(3) | 6着 | 33'35"94 |
| | 碓井将也(3) | 7着 | 33'39"79 |
| | 安西聡(2) | 8着 | 33'47"08 |
| | 本田雄生(2) | 10着 | 33'55"95 |
| | 田辺明(M1) | 11着 | 37'33"10 |

◎宮城県春季陸上競技大会(4/26～4/27) 於 ひとめぼれスタジアム(利府)

この大会は宮城県陸協に登録している選手しか出場できない大会ということで出場者は限られていましたが、我が東北大学陸上競技部から4名の選手が入賞しました。

◆男子 100m

| 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|---------|----|-------------|
| 阿部耕大(2) | 2位 | 11"03(-1.1) |

◆男子 400m

| 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|---------|----|-------|
| 南共哉(M1) | 5位 | 49"87 |

◆男子走幅跳

| 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|----------|----|------------|
| 岡崎和貴(M1) | 2位 | 6m93(±0.0) |

◆男子ハンマー投げ

| 氏名(学年) | 順位 | 記録 |
|----------|----|-------|
| 田附遼太(M2) | 3位 | 27m73 |

◎平成 26 年度春季三秀総会(5/9) 於 片平さくらホール

5月9日、片平桜ホールで平成26年度春季三秀総会が行われました。

佐藤会長、彦坂副会長、宮崎幹事長、吉田監督から挨拶がありました。

平成26年度活動予定の報告の後、新入部員の紹介が行われました。また、昭和62年卒の渡辺裕生さんが幹事に推挙され、承認されました。最後に、出席して下さった先輩方より一言ずついただきました。

三秀総会の後は今年度からの試みとして部員総会が開かれました。部規約の確認等、有意義な話し合いが行われました。

★出席して下さった先輩方(敬省略、大学院生を除く)★

伊藤弘昌、宮崎鉄男、佐藤健二、佐藤源之、眞山隆徳、渡辺裕生、彦坂幸毅、久保正樹、吉田真人、安孫子聡子、佐藤道由

◎第 67 回東北学生陸上競技対抗選手権大会(5/16～5/18)

於 ひとめぼれスタジアム(利府)

5月17～19日、ひとめぼれスタジアムで第67回東北学生陸上競技対抗選手権大会(東北インカレ)が行われました。結果は、男子総合2位、男子トラック2位、フィールド3位、女子総合7位、女子トラック5位、フィールド5位でした。今年も全日本インカレ出場者が輩出された他、10000mで表彰台を独占するなど、上位入賞者も多数みられました。

☆トラック

男子 100m 予選

2-3 1着 宮崎幸辰(2) 10"69 (+1.2)

スタートから他を寄せ付けない圧巻の走りを見せた宮崎。みるみるうちに加速して、後半は流しての余裕の走りで1着となり、準決勝へと進んだ。

3-7 5着 阿部耕大(2) 11"39 (+1.6)

一歩ずつぐいぐいと進む安定した動きを見せるものの、脚の調子がよくなく、最近の彼にしては控えめなタイムであった。力のある選手なので、今後調子を上げてくれることだろう。

男子 100m 準決勝

3-6 1着 宮崎幸辰(2) 10"74 (+1.3)

予選と同様、すばやい加速を見せ、最後までトップを譲ることなくフィニッシュ。

予選よりタイムは落ちたが余裕がみられ、決勝に期待の残る走りであった。

男子 100m 決勝

4位 宮崎幸辰(2) 10"81 (-0.4)

スタートはいつも通り反応よく飛び出すのが、後半は少し動きが固くなったように見えた。上位争いは混戦であった。結果は4位と好成績であったが、本人は満足していない様子であったので、今後も頑張っていてほしい。

女子 100m 予選

1-6 6着 千葉愛理沙(4)

13"42 (-0.6)

スタートの反応もよく、粘り強い走りで駆け抜けた千葉であったが、スタート後に体を早く起き上がらせてしまいうまく加速

に乗りきれなかった。改善すればタイムの向上も期待できるだろう。

男子 200m 予選

4-8 1着 宮崎幸辰(2) 22"34 (+2.8)

いつも通り早いスタートで飛び出すと、トップでコーナーを駆け抜けた。直線に入ってから横を見て周囲を気にしながらも流してのゴール。余裕のある走りで、1着で準決勝進出を決めた。

男子 200m 準決勝

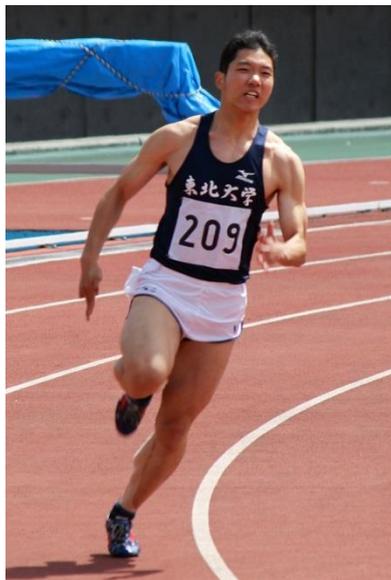
1-7 2着 宮崎幸辰(2) 22"26 (-2.2)

スタート直後から一気に抜け出すと、ホームストレートに入っただけで流し始める余裕を見せてきた。後続の追い上げが凄まじく少々ひやひやさされるレースであったが、2着に入って決勝へと進んだ。

男子 200m 決勝

1位 宮崎幸辰(2) 21"43 (+0.7)

得意のスタートでトップに抜け出すとそのまま前半100mを通過した。後半、内側のレーンの選手に並ばれかけたが、気合の走りで首位を守りきり1着でゴールした。短距離としては実に44年振りの優勝を果たし、大学の記録にまた一つ名を刻んだ。



△カーブを駆け抜ける宮崎

男子 400m 予選

1-6 5着 竹原大(3) 50"49

前半からスピードに乗り、ラスト100mに入っても落ちることなく攻めのレースを見せ、自己ベストを更新する走りでゴールした。決勝には届かなかったが、調子の良さを感じさせ、次につながるよいレースであった。

3-4 2着 南共哉(M1) 48"24

大学院生になっても、エースの走りは健在であった。前半からスピードに乗りやすいと加速して、トップでレースを展開。競りながらもペースを落とさず、2着ながら好記録で決勝進出を決めた。

5-2 5着 菅原大志(3) 51"80

前半からとばしていき、周りの選手について以降とするが、ラスト150mからの粘りが足りず失速してしまった。3年に上がり期待のかかる菅原であるが、同学年の竹原に負けじと今後もタイムを伸ばしてほしい。

男子 400m 決勝

3位 南共哉(M1) 47"90

8レーンながらいつものように自分のペースでレースを進めた南。ラスト100mの伸びがめざましかった。ホームストレートに入った時点では5、6着であったが残り50mからの凄まじい追い上げで他の選手をかわして3位に食い込んだ。タイムも部記録更新という素晴らしいものであった。

女子 400m 予選

1-3 7着 加藤かあら(2) 62"81

スタートから100mあたりで周囲の選手より出遅れてしまうが、バックストレートに入っただけで大きなストライドでペースを落とすことなく走ることができた。実力

のある選手なので、今後のタイムに期待できるだろう。

2-7 8着 井出桃愛(3) 65"05

前半から攻めの走りでペースを上げて他の選手に食らいつくことができたが、じりじりと突き放されてしまった。スピードが落ちないようにすれば、タイムの伸びが期待できるだろう。

男子 110mH 予選

1-3 3着 工藤知央(3) 16"21 (-3.0)

向かい風が強い中でのレースとなった。スタートの反応が周りに比べて遅く、スピードに乗りきれていないように見えた。動きも工藤の本来の動きのようにあまりキレがないようであった。3位をキープしたものの、惜しくも決勝進出を逃した。

2-6 1着 渋谷知暉(M2)

15"44 (-0.1)

スムーズなスタートとハードリングは流石といったところか、首位を守り1位でゴールした。安定の走りで決勝進出を決め、貫禄のあるレースであった。

3-3 5着 本間大輔(4) 15"83 (+0.7)

スタートは悪くなく、周囲と横一千でハードリング。3台目付近で少々スピードが落ちたように見えたが、徐々に追いつき、ゴールは混戦であった。決勝進出が期待されたが着順は5着、タイムもあと少しで届かなかった。

男子 110mH 決勝

4位 渋谷知暉(M2) 15"20 (-0.6)

前半からスムーズな走りを見せ、3台目までトップと横並びであった。中盤から少し遅れてしまったが、最後まで表彰台争いに絡んだ白熱のレースであった。

男子 400mH 予選

1-8 4着 工藤知央(3) 56"28

8レーンながら前半から攻めの走りで飛ばしていったが、後半で失速してしまった。110mHの疲労もあったのだろうか、いつもの走りができていないような印象であった。キレのある工藤に早く戻ってきてほしい。



△ハードルを飛び越える工藤

2-4 3着 佐藤弘隆(2) 55"06

前半もさながら、200m～300mの走りが非常によく見えた。後半は接戦となり着順で決勝を決めることはできなかったが、タイムがよかったためプラス進出となった。54秒台が見えてきた。

3-5 1着 千葉優人(4) 54"71

前半から他を寄せ付けない安定の走りを見せた。200～300m間もそのままペースを維持しつつ、ラスト100mは流しつつも1着をキープしてそのままゴールした。余裕のある走りで決勝進出を決める。

男子 400m 決勝

5位 佐藤弘隆(2) 54"49

前半から勢いよく攻めていった佐藤。外側の選手を追い抜くなど好調の走りであったが、7台目で歩数が合わなくなるなどもったいない場面もあった。それでもベスト

を大幅に更新する走りで5位に入賞。今後にも大きく期待できるレースであった。

8位 千葉優人(4) 69"19

千葉も前半からいつもは見られないほど攻めた走りで突っ込んでいった。首位で7台目を越え、このままゴールするかと思われたが、8台目でまさかの転倒。好タイムが期待できただけに悔しい結果となってしまった。



△トップを争った千葉

女子 400mH 決勝

5位 浅見恭子(3) 66"20

スムーズなスタートで1台目を走り抜けていった。200mを通過したあたりで内側から他の選手に追いつかれてしまう。トップとも差が開いてしまったが、最後までペースを大きく落とすことなくゴールした。粘りのある流石の走りだったと言えよう。

男子 4×100m 予選

1-3 6レーン 3着 43"18

南(M1)-宮崎(2)-竹原(3)-菅原(3)

1走の南は直前の400mで力走を見せた後にも関わらず、疲れを見せないスピードと安定感のある走りで、2走へとつなぐ。2走の宮崎はエースらしい走りで周囲との差

を広げ、激戦区を走り抜いて3走へつなぐ。竹原は3走への急な起用であったが、宮崎とのバトンをしっかりと合わせて、順位をキープしながらスピード感のある走りでアンカーへつなげる。4走の菅原も突然の抜擢にきちんと対応し、前の3人が稼いだリードを守り切ってゴール。手堅く決勝を決めた。

男子 4×100m 決勝

6位 42"27

南(M1)-宮崎(2)-竹原(3)-千葉(4)

1走の南は安定した素晴らしい走りであった。しかし、2走との間でバトンがかなり詰まってしまう。後半の伸びが相当よかったとも言えるだろう。2走の宮崎は自身のレースを2本終えた後だったがしっかりとエース区間を走り切った。3走とのバトンパスで少しもたつき、疲労が見えたか、内側の選手に詰められる場面もあった。3走の竹原は詰められた分を取り返すようにスピード感のある走りで後続を離す。4走とのバトンパスも流れよく渡すことができた。アンカーの千葉も400mHの後でありながら前のチームを追い、後半までしっかりと走り切った。ラスト100mで少し動きが固くなってしまったように見えた。

女子 4×100m 決勝

6位 51"80

吉村(1)-千葉(4)-渡邊(2)-加藤(2)

入部早々4継デビューを果たした1走の吉村。外側の選手から離されてしまうも、後半にかけてよい走りでバトンパス。つまってしまったがそれほどよい走りであったとも言える。2走の千葉は後続の選手との間は保ちつつも前の選手との距離は縮めきれなかった。バトンパスはスムーズに行えていた。3走の渡邊は個人種目を終えてからの出場で少々疲れが見えたか。スピード

に乗りきれず内側からの追い抜きを許してしまった。アンカーの加藤はバトンパスもスムーズにスタートを切った。彼女も個人種目の後で疲労があったと思われるが最後まで大きく落とすことなくゴールした。

男子 4×400m 予選

1-2 5着 3'24"22

竹原(3)-南(M1)-杉浦(4)-菅原(3)

1走の竹原は初日の400mで自己ベストを出しており、走りにも勢いが見られた。山形大学との接戦でも足が良く動きキレがあった。ラスト100mも落とすことなく走り切り2走へ。2走の南はエース区間を託されたものの、実力のある安定した走り役目を果たした。後続に抜かれても抜き返す等、力ある走りを見せ、3走へつないだ。3走の杉浦は練習がうまく積めていない中でのマイル起用であった。前半少し体が重そう、いつものキレがなく、後ろとの距離を詰められてしまう。そのまま4走へバトンをつなぐ。アンカーの菅原は前半からキレのあるピッチ前の選手に食らいつくものの、後半でスピードを落とし、後ろから抜かれてしまう。5着と決勝進出が危ぶまれたが、タイムで拾われ決勝のレーンを獲得した。

男子 4×400m 決勝

8位 3'22"14

竹原(3)-南(M1)-佐藤(2)-菅原(3)

1走の竹原は前半からよい走りを見せた。好ペースを維持できるかと思われたが、ラスト10mで失速してしまい、バトンパスがもたついてしまった。個人種目とリレー種目との疲労が出てしまったか。2走の南はエースらしくよいペースでまとめたが、前の選手が障害となりうまく走れていないようであった。本来の走りの良さが生かせずもったいなかった。3走の佐藤は個人で400

mHを走った後のマイル起用となった。勢いそのまま、前半から攻めた走りが出ていた。後続の選手を突き放し、後半もペースを落とすことなくしっかりと役目をはたして、4走へバトンを託す。アンカーを任された菅原は、前半はいつも通りキレのあるピッチ走で攻めることができたが、後半で失速してしまう。菅原は前半非常によい選手であるので、改善できればもっとよいタイムも期待できるようになるだろう。

女子 4×400m 決勝

6位 4'14"06

渡邊(2)-千葉(4)-今川(1)-加藤(2)

1走の渡邊は、今大会最多種目に出場しており、走りにはやはり疲れが見えていた。しかし負担が大きい中でもペースを崩さずしっかりと走り切って、2走にバトンを渡した。2走の千葉はブランクを感じさせない非常によい走りをした。前の選手との距離を縮めていくと、ラスト100mで追い抜き、順位を一つ上げて3走へ。3走の今川は1年生ながらマイルへ抜擢された。体力面での課題は否めなかったが、順位を落とすことなくデビュー戦ながらよい内容であったと思われる。後続に追い抜かれることなく、そのまま4走へつなぐ。アンカーの加藤は自身400mと800mに出場していたものの、アンカーらしく安定した走りを見せた。ラスト100mで2人を追い越し、順位を上げてゴールした。

男子 800m 予選

1-5 4着 田中翔悟(2) 2'04"25

ややポケットされ最初の200~300mは外側を走る。400mは59"。2周目で3位に位置するも、ラスト300mで後続の追い抜きを許す。ラスト100mで追い上げを見せたが4着でフィニッシュ。

2-7 3着 佐藤洋介(3) 1'59"48

序盤から2位と好位置でレースを進める。前半400mは58"で通過。ラスト100mまで2位の位置につけ、上位3人での勝負になったが、最後の最後に競り負けて3位それでもタイムで拾われ決勝へと進んだ。

3-9 3着 三上和樹(M1) 2'05"61

集団後方からのスタートで、スローペース発進となった。最初の400mは64"。残り1周での勝負になり、ラスト200mの時点で3番手。前の二人を追いかけるが追いつくことができなかった。3位でフィニッシュしたが、もっとタイムが出せただけに悔しい結果となった。

男子 800m 決勝

4位 佐藤洋介(3) 1'58"33

スタートがうまくいき、3番手の良い位置を取ることができる。前半400mを57"で通過。ラスト200mで2番手と肉薄の勝負となる。そのまま抜き去るがラスト100mで後ろから来た選手に抜かれ、フィニッシュのわずかな差で4位となった。

女子 800m 予選

1-9 9着 加藤かあら(2) 2'42"09

200mで集団後方につき、前を追う形に。前半400mを69"で通過。2周目に入って大きく失速してしまい、ラスト200mで1人に抜かれてしまいそのままフィニッシュ。練習を積めばタイムの向上も望めるだろう。

2-2 9着 井出桃愛(3) 2'39"66

集団の一番後ろからレースを進める。前半400mを72"で通過。2周目に入ると失速してしまい、前との距離を離されそのままフィニッシュ。こちらも中距離の練習を積んでいくことが課題となるだろう。

男子 1500m 予選

1-15 3着 菅野均(M2) 4'07"46

時々突風が吹くなど天候に恵まれない中での予選スタート。最初の400mは集団前方につき、67"で通過する。800mの通過は2'14"で、この400mを66"で通過した。2つに分かれた集団のうち前の集団に位置づける。1200mの通過は3'12"、この400mは66"。ラストの競り合いで団子になってフィニッシュ。着順で手堅く決勝を決めた。

2-13 4着 三上和樹(M1) 4'15"13

2-3 7着 早坂謙児(2) 4'17"23

三上は初めから集団前方でレースを進める。早坂は真ん中あたりに位置づけるがややポケットされてしまう。先頭の400m通過は72"とスローペース。800mの通過は2'22"で400mが70"。スピードが上がり集団がばらけ始める。1000m付近で一気にスピードが上がり、1200mで三上は4番目につける。この400mは65"。三上はそのまま4着でゴールし決勝へ進んだ。早坂は食らいつこうとするも惜しくも届かず7着でフィニッシュとなった。

男子 1500m 決勝

4位 三上和樹(M1) 4'04"30

10位 菅野均(M2) 4'13"39

菅野は前半から前に出ようとするも前方に阻まれ、転びかける場面も。三上はスムーズに先頭の後ろでレースを進める。最初の400mは65"。三上はそのまま2番手という良い位置取りでレースを進める。菅野は出遅れが響いてか、前と離され全体の後方につく。三上の2周目400mは63"。ここからペースが上がり三上は単独2位、菅野は置いて行かれてしまう。三上はラスト200mで追い上げられ、スパートがきかず2人に抜かれて4位でフィニッシュ。菅野は

終始後ろでレースを進め、追い上げができなかった。

女子 1500m 決勝

8位 塩谷美菜子(3) 4'55"29

15位 榊原真璃子(3) 5'15"09

16位 小高真依(M2) 5'19"94

塩谷が400mあたりまで第2集団の後方、小高と榊原は全体の後方でレースを進める。最初の400mは塩谷が75"、小高と榊原が79"。塩谷の800mは2'34"。600mから全体的にばらけており、塩谷は真ん中やや後方から前を一人ずつ追い上げていくかたちになる。小高と榊原は一貫して後方でレースを進めた。ラスト100mで塩谷は一人かわして8位に食い込んだ。

男子 3000mSC 決勝 タイムレース

5位 尾形翔平(M2) 9'43"63

7位 高橋仙一(2) 9'51"81

14位 大野慎也(3) 10'10"92

1組目、大野がスタートと同時に素早くトップに出ると、2位以下を離して走る。尾形は後方でレースを進め、2周目に入るまでで4番手まで順位を上げる。1000m大野は3'00"。大野は少々疲れが出始める。尾形は一時3番手まで上がるが、6番手まで順位を落としてしまう。大野は失速が止まらず尾形にも追い抜かれてしまう。尾形は2000m地点で5番手。大野は2400m付近で3人に抜かれて10番手に。ラスト400m尾形は前方との差を詰めようとするも届かなかった。大野も10番手のままでゴール。2組目、高橋はスタートがうまくいきすぐにトップに出るが、後方に抜かれ2番手に。そのままの位置をキープして走る。2000mまでも先頭との間はほとんど開かず、良い位置で進む。ラスト1周で後ろの選手に距離を徐々に詰められる。ラスト100mで後続を突き放しスパートをかけるものの前に

は追いつくことができず、2番手でフィニッシュ。全体で7位となった。



△障害を越える高橋

女子 3000mSC 決勝

6位 宮間志帆(3) 12'02"72

一周目集団で行くも、最初の水壕で大きく失速。その後集団に追いつくも2周目の初めには集団から離され始める。2周目の水壕で1人に抜かれ一時最後尾に。その後は単独で前を追う形となる。4周目の水壕を越えたあたりで1人を抜く。6位に浮上してからは前後がかなり離れて単独走となり、そのままフィニッシュ。ラスト1000mのスパートは流石の走りであった。初めての3000m障害ということで水壕に足を取られたようだが、しっかりと走り切った。

男子 5000m 決勝 タイムレース

2位 高橋佳希(3) 15'17"30

3位 菅野均(M2) 15'18"63

10位 出口武志(2) 15'43"70

全員1組目。出口からスタートから前に出て引っ張る形で入る。400m通過の後出口がスピードを上げ、縦長になる。高橋が400mで接触、まさかの転倒。しかしすぐに追いついて前を追う。1000mで出口がトップ、菅野が6位付近、高橋も10着付近まで順位を上げる。2000mの通過で1位集団が10人となり混戦状態。2600mで菅野も前に入る。出口と富士大学の選手で競りながら集団を引っ張っていく。ラスト4周で出口が

集団から離れ始め、単独 8 位の位置に。先頭集団は 6 人で菅野が 2 番手、高橋が 3 番手。ラスト 1000m から先頭の富士大学が一人抜け出し、そこに高橋がついてゆく。菅野は 3 番手の選手につきラスト 600m から単独 3 位に上がる。出口は後続の選手に抜かれるもついていけず、そのまま順位を落としてしまった。高橋はラスト 200m まで粘るもののスパートで差が付き 2 位でフィニッシュ。菅野も高橋にラスト 100m で迫るが 5m ほど後方でフィニッシュ。出口も最後まで走り切り 10 位でゴールした。

女子 5000m 決勝

10 位 榊原真璃子(3) 19'25"17

14 位 梶山あずさ(3) 19'43"29

鈴木絢子(4) DNS

榊原は 3 人の 9 位集団の真ん中でレースに入る。梶山はその後方につく。榊原は 800m 付近で単独 9 位となり、前の 4 位集団を追う。梶山は 1000m 付近から前との差が開き始めるが、離されないように粘りの走り。榊原は 1400m 付近で後方集団に追いつかれ、4 人の 9 位集団で走る。梶山はその 10m ほど後方を離れずについている。榊原は集団を前方で引っ張り、梶山は後続に抜かれるものの、ついていけず単独走となる。3000m 過ぎで集団がばらけ始め榊原は単独 10 位となる。梶山は前との差が広がらないように粘りの走りを見せる。榊原はラスト 1 周でスパートをかけ、後ろと差をつけてフィニッシュ。梶山も最後まで粘りを見せてゴールした。

男子 10000m 決勝

1 位 本間涼介(2) 31'39"41

2 位 高橋佳希(3) 31'58"12

3 位 藤澤萌人(M1) 32'48"85

強風が吹く悪条件の中でのレーススタートとなった。スタートから 200m の地点で

高橋・本間と学院大で先頭集団を形成。藤澤は第 2 集団をつくるが後ろから抜かれ、単独 5 位で走ることになるが、1000m 通過の時点で 6 位以下の第 3 集団に 80m ほどの差をつける。1400m で藤澤は前を一人抜き 4 番手に上がる。先頭の本間と高橋もイーブンペースで冷静にレースを進める。藤澤はその 100m ほど後方で 4 位争いを展開する。3000m を通過したところで先頭集団から学院大の一人が離れ始めるが、本間と高橋は依然としてペースを守りきる。藤澤は 3600m 付近で大きく前に出て 4 位に上がる。5000m 通過時点で本間が高橋をかわしてトップに出る。風が強くなり 3 人の走りにも辛そうな様子が見える。6000m 通過以降は後続も離れ、東北大学以降後ろが続かない状態に。本間と高橋の先頭争いは本間がリードしていき、藤澤もまた一人を追い抜いて順位を 3 位に上げる。先頭争いは最後までわからない白熱のたたかい。ラスト 1000m で本間がスパートをかけるものの、高橋はそれについていくことができない。本間はそのまま高橋を振り切って 1 位でフィニッシュ。続いて高橋、藤澤がゴール。東北大学で表彰台を独占した。

女子 10000m 決勝

4 位 鈴木絢子(4) 37'49"85

先頭は東北福祉大学が 3 人で集団を形成し、鈴木はそれについていくかたちとなる。2000m を通過した時点で先頭の 3 人から離され始める。後続の学院大学と第 2 集団として走る。4000m 通過時点で先頭集団と 80m ほど離れるが学院大学を抜き、単独 4 位の位置で走る。先頭集団も徐々にばらけ始める。5000m で再び学院大学に追いつかれて、6000m 地点では鈴木は学院大学について走る状態になる。7000m で再び抜き返して 4 位に上がり、前を追うがそのままの順位でフィニッシュした。

女子 10000mW 決勝

6位 西條詩織(2) 1:00'42"53

スタートから2つの集団に分かれ、後方集団の最後尾につく。400m通過時点で前と離れ始める。1400mで注意を受けるが、ペースは特に変わらず歩いていけている。3000mまで自分のペースを保ち、6位の学院大学に迫り、追い抜く。4000mを通過して、5位との差は200mほどだが、西條の動きもよくなっている。6000m通過で少々疲れが見え始めるが、終始良いリズムとピッチで歩いていった。ラスト1000mも安定したフォームでフィニッシュ。初めての10000mWであったが、安定したレースであった。

☆フィールド

男子走高跳

2位 岡部大輝(4) 1m97

岡部は助走が安定せず、苦しみながらも力技で1m97を3回目にクリア。見事2位をもぎ取った。徐々に調子を上げ、2mの2回目は非常に惜しい跳躍だった。次回は2m越えを果たして欲しい。

3位 山田健太郎(4) 1m91

山田は自滅した。テンポアップが出来ず、上体が起きて踏切が間延びする悪いパターンにハマってしまった。3位になれたのは運以外の何物でもない。次回は修正してこちらも2m越えを期待したい。

7位 佐藤颯真(2) 1m88

佐藤(颯)はこの春取り組んだ助走の改善が実を結び、大学ベストタイを出し対抗戦初得点を挙げた。助走がより滑らかになれば持ち前の踏切のキレを活かし、自己ベストはもうすぐであろう。

女子走高跳 決勝

6位 渡邊朝美(2) 1m45

1m40から試技を始めた渡邊(2)は、助走の流れが悪く、内傾がとれない跳躍が多かった。1m45の2回目は修正し、体がうまく浮いたが、1m50にバーが上がると、1、2本目は助走スピードも上がり踏み切りが近くなったため肩で落とした。3本目も突っ込んで流れた跳躍となりクリアできなかった。練習不足による助走の不安定さが目立つ内容であったため、七大戦に向けては計画的に練習を積み、きちんと修正したいところである。

男子棒高跳 決勝

工藤航平(2) NM

ベストより高い3m70から試技を開始した工藤。過去2試合から踏み切り後の振り上げを課題として練習にとり組んできた。

1本目はその練習の成果を見せる惜しい跳躍だったが、失敗。2本目以降の試技に期待もかかったが、2本目は1本目の振り上げができず失敗。3本目は力みと風から踏み切り位置が40cmも入ってしまい振り上げには至らなかった。NMが続く工藤であるが、試合ごとに実りある跳躍を見せており、この壁を越えれば七大戦で得点勝負ができる。練習を腐らず継続してほしい。

2位 高橋拓実(2) 4m70

4m50から試技を開始した高橋。難なく1本目で成功。バーは4m70へあがる。この時点で仙台大学の3選手と高橋の4人。高橋はこの高さも1本目で成功する。4m80にバーは上がる。仙台大学の2選手と高橋の3人。この高さからひとつ上のポールに変えて試技に臨むが1本目は幅のない跳躍となってしまい失敗。仙台大の選手が1本目で成功したため逆転された。一位をねらう高橋はバーを4m90へあげるが、2本目

は強風で助走をやめ、3本目は再び幅のない跳躍になってしまい試合を終えた。高橋は練習不足である。評定で跳ぶことはできないが助走練習などで安定した助走を身に付けなければ今後の発展はない。

男子走幅跳

4位 岡崎和貴(M1) 6m89 (-1.0)

岡崎も助走がうまく合わず苦戦したようだ。しかし、3本目でしっかり決勝を決めたのは流石と言える。徐々に動きが良くなってきていたが、最も記録が出ていたであろう後半2本はファールとなってしまった。

10位 岡部大輝(4) 6m62 (+0.8)

岡部は前日までの競技で疲労が溜まっていたようで、負担が大きい中での跳躍となった。しかしながら本来の力を発揮できず、記録も伸ばすことができなかった。

18位 藤井翼(M1) 6m19 (±0.0)

藤井も混成競技で疲労が溜まっていたようで、持ち前のパワーを発揮することができなかった。記録もいまひとつ伸びてこなかった。

女子走幅跳 決勝

5位 渡邊朝美(2) 5m04 (±0.0)

渡邊は走高跳の後であったため、序盤は助走のリズムがうまく刻めていなかったが三回目で今シーズンのベスト5m04をマークした。トップ8に残り5、6回目で助走が乗ったダイナミックな跳躍をみせたが二本とも惜しくもファールとなり、結果5位であった。今大会で掴めた感覚を磨いていけば部記録に迫る跳躍ができるであろう。

15位 後藤文子(3) 4m39 (+0.5)

後藤(3)の助走前半に改善が見られたがラストのリズムアップができずに踏切へ

移行できていなかった。シーズンに入って二か月が経つが記録が低迷し続けているため、課題を克服に努めて、今後控える対抗戦で戦えるように備えなければならないであろう。

男子三段跳 決勝

2位 須藤海(2) 14m45 (+0.9)

須藤も、序盤は跳躍がうまくはまらず苦戦していたが、徐々に感覚をつかんでいき、6回目の試技で、14m45のビッグジャンプを見せ、逆転で2位となった。最後の試技で手拍子を求める等、試合を楽しんでいたことが良い跳躍につながったと思われる。

小幡卓哉(2) NM

佐藤文哉(2) NM

佐藤、小幡は、強風に翻弄され助走を合わせられず3回全ての試技がファールとなってしまった。結果こそ伴わなかったが、各々課題を見つけられたようなので、今後の成長に期待したい。

三人ともまだ2年生で、伸びしろを感じているようなので、今後の試合が楽しみである。

女子三段跳 決勝

3位 渡邊朝美(2) 10m71 (+0.1)

今大会四種目目に臨む渡邊(2)であるが、持ち前の体力とパワーでここでも素晴らしいパフォーマンスを行った。三回目の試技で10m71を跳び、自己ベストを更新。接戦の上位争いを勝ち抜いて見事に三位を収め、表彰台に上った。彼女は六本中三本でこれまでの自己ベストを上回り、冬季練習の努力の成果が見られる試合であった。

(六本中二本はファール) しかし踏切で腰が乗り切れていない、足の振出が甘いといった課題も見つかったので技術練習を積

むことでさらに記録を伸ばすであろう。部記録 10m98 を破り 11m の壁を超えた跳躍に期待がかかる。



△跳躍の瞬間の渡邊

男子砲丸投 決勝

9位 佐藤雄也(2) 9m60

佐藤の一投目は、フィニッシュで動作が止まってしまったが、もう少し押せるようになれば伸びるところ。記録は 9m60。二投目もフィニッシュで決めきれなかった印象があった。記録は一投目とほぼ変わらず。三投目で記録を大幅に伸びたがフィニッシュで止まりきれずにファールとなってしまった。しっかりフィニッシュが決まるようになれば更に記録更新が期待できるだろう。

10位 箕輪純尚(2) 9m51

一投目で自己ベストとなる 9m51 の記録を出す。しかしまだまだ伸ばせそうなところである。二投目はグライドにスピードがなく、弾点も低くなってしまった。三投目は力強さに欠け、記録が伸びなかったため、自らファールとした。怪我明けのためか、グライドのスピードや力強さに物足りなさを感じたが、その中で自己ベストを出せたのは収穫であっただろう。

12位 酒井利晃(4) 8m65

酒井の一投目は、力強さが足りなく砲丸に力が伝わっていなかった。二投目もグライドに勢いがなく、思ったように記録を伸ばすことが出来ない。ハンマー投げの練習に重点をおいていたためか、練習不足が露呈した結果となった。

男子円盤投 決勝

10位 石川遼(4) 28m22

石川の一投目は弾道が低く、風で動きがぶれたようにみえた。二投目も一投目と同じように弾道が低く、円盤に力を伝えきれていないようであった。三投目も角度が低く、修正できないまま試技が終了。ベスト 8 常連の石川にとっては悔しい結果となった。

13位 伊藤泰彬(4) 22m50

伊藤の一投目は動きがスムーズにつながり、記録を出すことが出来た。二投目は最後の投げに勢いがなく、一投目に比べてターンもスムーズではないように見えた。三投目は円盤の角度が大きく良い投げに見えたが、記録を伸ばすことが出来なかった。

女子円盤投 決勝

3位 青木千景(2) 30m59

風が強くコンディションがあまり良くない中での投擲。一投目は体が開き、右にそれる投擲になってしまった。しかし一投目としてはまずまずの内容。二投目は無難にまとめたが、三投目はターンがしっかりとせず、ファールとなってしまふ。ベスト 8 に残ってからの四投目、体が開いてしまいファール。五投目もファールと追い込まれたが、六投目で修正し、流れの良いターンで記録を伸ばし 3 位に入賞、部記録も更新した。

男子ハンマー投 決勝

7位 酒井利晃(4) 38m79

酒井の一投目はターンのバランスを崩してしまった。2回目と3回目の繋がりがよくなかった。二投目で自身の自己ベストを大幅に更新、ターンの繋がりがよかった。しかし三投目で繋がりがまた崩れてしまう。ベスト8に残っての四投目、いちかばちかの攻めの投擲をするも記録が伸びない。五投目、六投目は少々力んでしまったようであった。ターンの乱れを修正するのが課題となりそうである。

15位 田附遼太(M2) 27m68

田附は一投目でうまく回れていなかった。二投目では投擲の方向とターンの進む方向がずれてしまった。三投目も同様にずれが生じてしまったが、強風の影響も大きかったようである。

男子やり投 決勝

10位 伊藤泰彬(4) 55m16

伊藤は一投目から54m90とまずまずのスタート。勢いをつけて更に記録を伸ばしたいところ。二投目はやりにしっかりと力が伝わり、記録を伸ばす。三投目は勢いがあったものの記録を伸ばしきれなかった。

11位 工藤航平(2) 53m24

工藤の一投目は、やりが左に少し流れたが50mを超える記録を出す。二投目は、一投目ほど高さはなかったが、真っ直ぐにやりが飛んで行った。もう少し勢いが欲しい。三投目は勢いがある良い投げとなり、自己ベストを更新。もう少し高さが出れば記録も更に伸びるだろう。

20位 石川遼(4) 36m11

石川は一投目、二投目ともにやりが真っ直ぐに飛ばず、左に流れて行ってしまった。

三投目もやりが傾いてとんで行ってしまい、記録を伸ばすことができなかった。

男子混成十種競技 決勝

2位 藤井翼(M2) 総合 5567点

11"62(+0.1)-6m46(+0.1)-9m65-1m65-54"76-16"68(+0.8)-27m53-4m00-38m45-5'17"46

藤井はまず初日の100mでなかなかのタイムを出すと、続く走幅跳、砲丸投、走高跳とフィールド競技も高得点を出し400mも最後までスピードを落とさずに走りきった。2日目も110mHを組1着でゴールする校長の滑り出し。円盤投、やり投も好記録をマークし、棒高跳は4m00と全体の中でもトップクラスの記録を残した。最終種目の1500mも粘りの走りで最後まで力強く走り切った。1位の選手との差を埋めきれず、2位となってしまったが、対校選手として出場できる最後の混成競技で、気迫ある試合を見せてくれた。

3位 工藤翼(1) 総合 5395点

11"86(-1.4)-6m05(-0.2)-9m47-1m70-53"54-16"08(+0.3)-21m09-2m70-43m23-4'41"60

1年生ながら混成に出場した工藤。100mは風に恵まれなかったが悪くないタイムを出す。走幅跳と砲丸投もまずまずの記録で、400mはラスト50mで隣のレーンを抜き去る力走を見せた。2日目の110mHはとてもスムーズな動きで駆け抜けたが、円盤投、棒高跳は練習の不足が出てしまったのだろうか。やり投げはなかなかの記録を残した。最終種目の1500mは本人が得意だと言っていた言葉通りの圧倒的な走りで、1着でゴールした。フィールド種目の練習をもっと積みば更なる高得点が期待できるだろう。

自己ベスト更新者一覧(4/1～5/18)

- ・男子 100m
竹原大(3) 11"37(-1.2) (学連春季)
- ・男子 200m
竹原大(3) 23"33(-1.0) (仙台大競技会)
- ・男子 400m
南共哉(M1) 47"90 (東北インカレ)
竹原大(3) 50"49 (東北インカレ)
- ・男子 110mH
本間大輔(4) 15"83(+0.7) (東北インカレ)
- ・男子 400mH
佐藤弘隆(2) 54"49 (東北インカレ)
- ・男子 1500m
早坂謙児(2) 4'11"13 (仙台大競技会)
- ・女子 1500m
榊原真理子(3) 5'15"09 (東北インカレ)
塩谷美菜子(3) 4'55"29 (東北インカレ)
- ・男子 10000m
本田雄生(2) 33'55"95 (学連春季)
- ・女子三段跳
渡邊朝美(2) 10m71(+0.1)
(東北インカレ)
- ・男子砲丸投
箕輪純尚(2) 9m51 (東北インカレ)

○今後の予定

- ・6月7日 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 (仙台市陸上競技場)
- ・6月28～29日 第64回東北地区大学総合体育大会 (弘前市運動公園陸上競技場)
- ・7月12～13日 宮城県陸上競技選手権大会 (ひとめぼれスタジアム)
- ・8月10日 全国七大学対校陸上競技会 (京都・西京極)

○編集後記

今年の東北インカレは各パートで得点を稼ぎ、総合2位という伊藤主将の目標を達成することができました。北大戦・七大战と大事な対校戦を前にして、よい成績が残せたと言えるのではないのでしょうか。あと1週間後に控えた北大戦は、男子の連覇と、女子の2連覇がかかった大切な大会です。今年も男女アベック優勝が果たせるように、各選手しっかりと調整していってくれることでしょうか。今後とも陸上競技部に力強い応援をどうぞよろしくお願いいたします。

文責 副務 熊谷翔子